

あの災害を
忘れない

令和元年東日本台風災害から3年

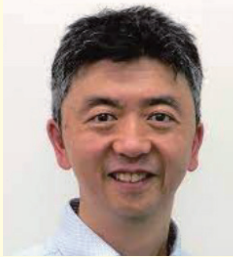
丸森地区 砂防シンポジウム

～災害の教訓を活かし、あたらしい『まるもり』をつくる～

登壇者紹介

【第1部】基調講演

令和元年東日本台風災害は、なぜ被害が拡大したのか？



講演者

内田太郎（うちだ たろう）

筑波大学 生命環境系 教授

2000年京都大学大学院 森林科学専攻（博士課程）修了。同年国土交通省入省。2006年国土交通省河川局砂防部砂防計画課計画係長。2007年土木研究所土砂管理研究グループ主任研究員。2018年国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 砂防研究室室長等を経て、2019年7月より筑波大学生命環境系准教授。2022年9月より同教授。

気候変動が土砂災害に及ぼす影響や土砂・洪水氾濫による災害を防止・軽減するための汎用シミュレータの開発などを近年の研究テーマとする。令和元年東日本台風災害を契機に設置された東北地方整備局宮城南部復興事務所 阿武隈川水系内川流域 土砂・洪水氾濫対策技術検討会の委員でもある。

【第2部】パネルディスカッション

教訓をつなぎ、活力ある明日のまるもりをつくる

コーディネーター

柴山明寛（しばやま あきひろ）

東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野 准教授

2008年12月東北大学大学院工学研究科助教等を経て、2012年6月より現職。現在は、東日本大震災をはじめとする自然災害に関するあらゆる記録、知見を収集し、次の災害に活かす研究に従事。2017年から宮城県「自主防災組織育成・活性化支援モデル事業」において丸森町金山地区及び館矢間地区を担当。丸森町令和元年台風第19号災害検証委員会の委員長や丸森町復興推進委員会の副委員長も務めている。

パネリスト

宍戸克美（ししど かつみ）

丸森町上地地区在住

丸森町内生まれ。長く仙南地域広域行政事務組合の消防職員を務め、東日本大震災時は県南沿岸部市町の現場対応にあたった経験を持つ。現在は丸森町の民生委員として、地域の現状や住民の流入の把握に務めている。令和元年東日本台風時には、早くより雨量の経過に注視し、周辺住民への避難の呼びかけ、要配慮者宅には自ら足を運ぶなどの行動により、人的被害の回避に貢献した。

パネリスト

野田 豊（のだ ゆたか）

丸森町立館矢間小学校主幹教諭

宮城県小学校教諭として大河原管内で教鞭をとり、特に丸森町内での勤務が長い。平成26年度から防災担当主幹教諭、平成28年度から安全担当主幹教諭として丸森町内小・中学校防災主任者への支援等に取り組んできた。令和元年東日本台風時には、七ヶ宿小学校に赴任中であったが、丸森町の災害状況について、校内児童にも発信。令和3年より館矢間小学校に赴任。宮城県教育委員会の「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践推進協力校として児童の防災教育に積極的に取り組む。

パネリスト

沖澤鈴夏（おきざわ すずか）

むらのさね・地域づくりコーディネーター

東日本大震災を契機として、大学在学時に南三陸町でのボランティア活動を行う。地域に関わる仕事に関心を持ち、2017年宮城県へ新卒1ターン。2018年「(一社)みやぎ連携復興センター」に就職し、県内様々な市町の復興や地域づくりに携わる。2021年より丸森町地域おこし協力隊として活動した後、2022年4月に独立。現在は地域づくりや住民自治を推進するコーディネーターとして活動中。丸森町の魅力を再発見するための「まちあるき」イベント等を主催。

パネリスト

保科郷雄（ほしな くにお）

丸森町長

丸森町生まれ。丸森町議会議員を務めたのち、2011年1月に丸森町長に就任し、現在に至る。就任直後に東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所事故の対応に注力する。また、町政史上最大の被害を受けた令和元年東日本台風災害では自ら陣頭指揮を執り、現在も復旧・復興とその先のまちづくりの実現に向けて各事業に取り組んでいる。

パネリスト

水越 崇（みずこしたかし）

宮城南部復興事務所長

令和元年東日本台風発生時は、東北地方整備局河川部地域河川調整官として東北地方整備局災害対策本部で情報収集にあたりながら、災害の発生を受け、直後から土砂災害の被災状況調査等のため、丸森町に入る。令和元年11月に発足した前身の宮城南部復興出張所長を経て、令和2年4月の宮城南部復興事務所開所に伴い初代事務所長に就任し、現在に至る。